

第73回 日本PTA全国研究大会 令和7年8月22日・23日



「サステナブルな未来づくりのために」

～創造と協働を 石川から～

石川大会は令和7年8月22日・23日の2日間にわたり石川県内6つの市で8つの分科会に分かれ1日目の分科会会場がそのまま2日目の全体会会場となる分散開催となりました。

第3分科会 「地域連携」

石川大会参加レポート01

金沢駅から在来線で約1時間で会場へ。令和6年元日の大地震と大雨。被災地と避難所のリアルなお話を、第一部輪島市教育長の小川先生より基調講演を拝聴。印象的な内容は、有事の際は、生徒・保護者・地域住民が一体となることの大切さを語っておられました。また生徒の「集団疎開」を、石川県と隣接市と協力し実施したことや避難所となる学校の覚悟など、あっという間の55分間で、涙なく聞くことはできませんでした。

第二部は5名が登壇しパネルディスカッション。基調講演の小川教育長はじめ、被災体験を持つ仙台・福島・七尾・熊本のPTA代表者が進行役とパネリストでした。

被災の経験を教訓に変え語っていかねばならないという信念の下、未来の子どもたちのために尽力した体験を、同じ親目線で拝聴できたのは貴重でした。中でも避難所で組織的に連携し機能したPTAの組織のお話には感動いたしました。避難所では自分自身も被災者であり、家族と自分を守る自助を果たすことが精いっぱいだが、県PTAや日本PTA、同じく被災体験を持つPTAからの支援には励まされたと皆さん仰っておりました。

総括として小川教育長は、孤立させずつながりを大切にするPTAの組織は、無くてはならない。地域防災の担い手は現役のPTA世代。「地球がやさしい街になる」これが地域連携の原点です。そう締めくくられました。

貴重な経験と学びに感謝いたします。

副会長 山本 和紀